

コード番号 〇〇〇 - 〇〇 - 〇〇〇〇〇〇 -1

第三十六号の八様式(第六条関係) (A 4)

定期検査報告書

(防火設備) (第一面)

建築基準法第12条第3項の規定により、定期検査の結果を報告します。この報告書に記載の事項は事実に相違ありません。

特定行政庁

〇〇市長又は兵庫県知事

様

日付は提出日です。

令和 〇〇 年 〇〇 月 〇〇 日

報告者氏名 〇〇〇〇〇〇 所有者又は管理者

(所有者と管理者が異なる場合は管理者)

検査者氏名 〇〇〇〇〇〇

フリガナも記入してください。

【1. 所有者】

【イ. 氏名のフリガナ】 〇〇〇 〇〇〇〇

検査者が2人以上のときは、代表となる検査者を記入してください。

【ロ. 氏名】 〇〇 〇〇

法人にあっては、代表者名も記入してください。

【ハ. 郵便番号】 〇〇〇-〇〇〇〇

【ニ. 住所】 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

区分所有の場合、「〇〇 区分所有者一同」という形で記入してください。

【ホ. 電話番号】 〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇

【2. 管理者】

【イ. 氏名のフリガナ】 〇〇〇 〇〇〇〇

【ロ. 氏名】 〇〇 〇〇

【ハ. 郵便番号】 〇〇〇-〇〇〇〇

【ニ. 住所】 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

【ホ. 電話番号】 〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇

所有者と管理者が異なる場合は、「管理者」を記入してください。

※「管理者」とは、当該建築物の維持管理、長期修繕計画等に対して、金銭面を含め、主体的に関与された方のことです。

【3. 報告対象建築物】 (郵便番号 〇〇〇-〇〇〇〇)

【イ. 所在地】 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

【ロ. 名称のフリガナ】 〇〇〇〇〇〇〇

【ハ. 名称】 〇〇〇〇

【ニ. 用途】 〇〇〇〇

「要是正」の指摘がある場合、「要是正の指摘あり」に「✓」マークを記入してください。また、指摘事項の全てが既存不適格の場合のみ、「既存不適格」にも「✓」マークを記入してください。

【4. 検査による指摘の概要】

【イ. 指摘の内容】 要是正の指摘あり (既存不適格) 指摘なし

【ロ. 指摘の概要】 防火扉前に物品放置、防火扉閉鎖時運動エネルギー10J超

指摘がある場合、主な指摘事項を記入してください。(ただし、既存不適格の指摘事項を除く。)

【ハ. 改善予定の有無】 有 (令和 〇〇 年 〇〇 月に改善予定) 無

【ニ. その他特記事項】

改善予定年月のうち最も早いものを記入してください。

※受付欄	※特記欄	※整理番号欄(防災センター)
令和 年 月 日		
第 号		
係員氏名		

(第二面)

防火設備の状況等

【1. 建築物の概要】

【イ. 階数】 地上 5 階 地下 0 階
 【ロ. 建築面積】 1,220.50 m²
 【ハ. 延べ面積】 5,661.50 m²

小数点以下第2位まで記入してください。

【2. 確認済証交付年月日等】

【イ. 確認済証交付年月日】 昭和 51 年 6 月 6 日 第 〇〇〇〇 号
 【ロ. 確認済証交付者】 建築主事等 指定確認検査機関 ()
 【ハ. 検査済証交付年月日】 昭和 52 年 10 月 10 日 第 〇〇〇〇 号
 【ニ. 検査済証交付者】 建築主事等 指定確認検査機関 ()

【3. 検査日等】

【イ. 今回の検査】 令和 〇 年 〇〇 月 〇〇 日 実施
 【ロ. 前回の検査】 実施 (令和 〇 年 〇〇 月 〇〇 日 報告) 未実施
 【ハ. 前回の検査に関する書類の写し】 有 無

【4. 防火設備の検査者

【ロ. 前回の検査】は、前年度報告され、特定行政庁が第一面最下部「※受付欄」に押印した日付です。この日が不明な場合、「※整理番号欄 (防災センター)」の日付を明示ください。※検査を実施した日付ではありません。

(代表となる検査者)
 【イ. 資格】 (一級) 建築士 (大臣) 登録第 〇〇〇〇〇 号
 防火設備検査員 第 〇〇〇〇〇 号
 【ロ. 氏名のフリガナ】 〇〇〇 〇〇〇〇
 【ハ. 氏名】 〇〇 〇〇
 【ニ. 勤務先】 〇〇〇〇〇 建築設計事務所
 (一級) 建築士事務所 (兵庫県) 知事登録第 〇〇〇〇〇 号
 【ホ. 郵便番号】 〇〇〇-〇〇〇〇
 【ヘ. 所在地】 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
 【ト. 電話番号】 〇〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇
 (その他の検査者)
 【イ. 資格】 () 建築士 () 登録第 〇〇〇〇〇 号
 防火設備検査員 第 〇〇〇〇〇 号
 【ロ. 氏名のフリガナ】 〇〇〇 〇〇〇〇
 【ハ. 氏名】 〇〇 〇〇
 【ニ. 勤務先】 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
 () 建築士事務所 () 知事登録第 〇〇〇〇〇 号
 【ホ. 郵便番号】 〇〇〇-〇〇〇〇
 【ヘ. 所在地】 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
 【ト. 電話番号】 〇〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇

【5. 防火設備の概要】

【イ. 避難安全検証法等の適用】
 区画避難安全検証法 (階)
 階避難安全検証法 (階)
 全館避難安全検証法
 その他 ()
 【ロ. 防火設備】
 防火扉 (3 枚)
 防火シャッター (3 枚)
 耐火クロススクリーン (6 枚)
 ドレンチャー等 (台)
 その他 (台)

両開き扉、親子扉は
 一对で1枚とする。

【6. 防火設備の検査の状況】

【イ. 指摘の内容】 要是正の指摘あり (既存不適格) 指摘なし
 【ロ. 指摘の概要】 防火扉前に物品放置、防火扉閉鎖時運動エネルギー10J超
 【ハ. 改善予定の有無】 有 (令和 〇〇 年 〇〇 月に改善予定) 無

【7. 防火設備の不具合の発生状況】

【イ. 不具合】 有 無
 【ロ. 不具合の記録】 有 無
 【ハ. 改善の状況】 実施済 改善予定 (令和 〇 年 〇 月に改善予定) 予定なし

【8. 備考】

(第三面)

防火設備に係る不具合の状況

不具合がない場合、
この様式は報告書に添付不要です。

不具合を把握した年月	不具合の概要	考えられる原因	改善(予定)年月	改善措置の概要等
	<p>今回の検査の指摘事項や既存不適格の内容を記入するところではありません。</p> <p>前回検査時以降に把握した防火設備に係る不具合等のうち第二面6欄（防火設備の検査の状況）において指摘されるもの以外のものについて、記入してください。</p> <p>第二面の7欄（防火設備の不具合の発生状況）で、「有」にチェックがあった場合のみ、その内容について記入してください。</p>			

No.4~No.7の検査結果表は、報告対象防火設備のみ添付してください。
該当しない防火設備の結果表は、省略して構いません。

当該検査に関与した検査者	代表となる検査者	〇〇 〇〇	氏名		検査者番号	A1
	その他の検査者	〇〇 〇〇				A2

番号	検査項目	検査事項	検査結果			担当検査者番号
			指摘なし	要是正	既存不適格	
(1)	防火扉	閉鎖の障害となる物品の放置		○		A1
(2)		扉の取付けの状況		○		A1
(3)		扉、枠及び金物の劣化及び損傷の状況		○		A1
(4)	常閉防火扉	固定の状況	-			-
(5)	人の通行の用に供する部分に設ける防火扉	作動の状況		○		A1
(6)	連動機構	煙感知器、熱煙複合式感知器及び熱感知器	設置位置	○		A2
(7)		感知の状況	○		A2	
(8)		温度ヒューズ装置	設置の状況	-		
(9)		連動制御器	スイッチ類及び表示灯の状況	○		A2
(10)			結線接続の状況	○		A2
(11)			接地の状況	○		A2
(12)			予備電源への切り替えの状況	○		A2
(13)		連動機構用予備電源	劣化及び損傷の状況	○		A2
(14)			容量の状況	○		A2
(15)		自動閉鎖装置	設置の状況	○		A2
(16)	再ロック防止機構の作動の状況		○		A2	
(17)	総合的な作動の状況	防火扉(常閉防火扉を除く)	○		A1・A2	
(18)		防火区画の形成の状況	○		A1・A2	
上記以外の検査項目						

特記事項				
番号	検査項目	指摘の具体的内容等	改善策の具体的内容等	改善(予定)年月
(1)	閉鎖の障害となる物品の放置並びに照明器具及び懸垂物等の状況	物品が放置されている	撤去	ROO.○
(5)	人の通行の用に供する部分に設ける防火扉:作動の状況	運動エネルギーが10Jを超過	ドアチェックを調整する	ROO.○
<p>※異種用途区画に温度ヒューズ式が設置されている場合： (6)(7)(9)~(17)の「要是正」と「既存不適格」に○を記入してください。</p> <p>※堅穴区画に温度ヒューズ式が設置されている場合： (6)(7)(9)~(18)の「要是正」と「既存不適格」に○を記入してください。</p>				

当該検査に関与した検査者	代表となる検査者	〇〇 〇〇	氏名	検査者番号	A1
	その他の検査者	〇〇 〇〇			A2

番号	検査項目	検査事項	検査結果			担当検査者番号			
			指摘なし	要是正	既存不適格				
(1)	防火シャッター	設置場所の周囲状況	閉鎖の障害となる物品の放置並びに照明器具及び懸垂物等の状況	○			A1		
(2)		駆動装置	軸受け部のブラケット、巻取りシャフト及び開閉機の取付けの状況※	—					
(3)			スプロケットの設置の状況※	—					
(4)			軸受け部のブラケット、ベアリング及びスプロケット又はロープ車の劣化及び損傷の状況※	—					
(5)			ローラチェーン又はワイヤロープの劣化及び損傷の状況	○				A1	
(6)			カーテン部	スラット及び座板の劣化等の状況	○				A1
(7)		吊り元の劣化及び損傷並びに固定の状況		○				A1	
(8)		ケース		劣化及び損傷の状況	○				A1
(9)		まぐさ及びガイドレール		劣化及び損傷の状況	○				A1
(10)		危害防止装置(人の通行の用に供する部分に設ける防火シャッターに係るものに限る。)	危害防止用連動中継器の配線の状況		○	○		A1	
(11)			危害防止装置用予備電源の劣化及び損傷の状況		○	○		A1	
(12)			危害防止装置用予備電源の容量の状況			○	○		A1
(13)			座板感知部の劣化及び損傷並びに作動の状況			○	○		A1
(14)			作動の状況			○	○		A1
(15)	連動機構	煙感知器、熱煙複合式感知器及び熱感知器	設置位置	○			A2		
(16)		感知の状況	○				A2		
(17)		温度ヒューズ装置	設置の状況	—					
(18)		連動制御器	スイッチ類及び表示灯の状況	○				A2	
(19)			防火区画の形成の状況	○				A2	
(20)			接地の状況	○				A2	
(21)			予備電源への切り替えの状況	○				A2	
(22)		連動機構用予備電源	劣化及び損傷の状況	○				A2	
(23)			防火区画の形成の状況	○				A2	
(24)			自動閉鎖装置	設置の状況	○				A2
(25)	手動閉鎖装置	設置の状況	○				A2		
(26)	総合的な作動の状況	防火シャッターの閉鎖の状況	○				A1・A2		
(27)		防火区画の形成の状況	○				A1・A2		
上記以外の検査項目									
特記事項									
番号	検査項目	指摘の具体的内容等		改善策の具体的内容等		改善(予定)年月			
(10)~(14)	危害防止装置	危害防止装置未設置		危害防止装置の取付		未定			
<p>※異種用途区画に温度ヒューズ式が設置されている場合： (10)~(16)、(18)~(24)、(26)の「要是正」と「既存不適格」に○を記入してください。 ※堅穴区画に温度ヒューズ式が設置されている場合： (10)~(16)、(18)~(24)、(26)、(27)の「要是正」と「既存不適格」に○を記入してください。 ※面積区画に温度ヒューズ式が設置されている場合： (10)~(14)の「要是正」と「既存不適格」に○を記入してください。</p>									

当該検査に関与した検査者	氏名		検査者番号
	代表となる検査者	〇〇 〇〇	A1
	その他の検査者	〇〇 〇〇	A2

番号	検査項目	検査事項	検査結果			担当検査者番号		
			指摘なし	要是正	既存不適格			
(1)	耐火クロススクリーン	設置場所の周囲状況	閉鎖の障害となる物品の放置並びに照明器具及び懸垂物等の状況	○			A1	
(2)		駆動装置	ローラチェーンの劣化及び損傷の状況	○			A1	
(3)		カーテン部	耐火クロス及び座板の劣化及び損傷の状況	○			A1	
(4)			吊り元の劣化及び損傷並びに固定の状況	○			A1	
(5)		ケース	劣化及び損傷の状況	○			A1	
(6)		まぐさ及びガイドレール	劣化及び損傷の状況	○			A1	
(7)		危害防止装置(人の通行の用に供する部分に設ける耐火クロススクリーンに係るものに限る。)	危害防止用連動中継器の配線	—				
(8)			危害防止装置用予備電源の劣	—				
(9)			危害防止装置用予備電源の容	—				
(10)			座板感知部の劣化及び損傷並	—				
(11)			作動の状況	○				A1
(12)	連動機構	煙感知器、熱煙複合式感知器及び熱感知器	設置位置	○			A2	
(13)			感知の状況	○			A2	
(14)		連動制御器	スイッチ類及び表示灯の状況	○			A2	
(15)			結線接続の状況	○			A2	
(16)			接地の状況	○			A2	
(17)			予備電源への切り替えの状況	○			A2	
(18)		連動機構用予備電源	劣化及び損傷の状況	○			A2	
(19)			防火区画の形成の状況	○			A2	
(20)		自動閉鎖装置	設置の状況	○			A2	
(21)		手動閉鎖装置	設置の状況	○			A2	
(22)	総合的な作動の状況	耐火クロススクリーンの閉鎖の状	○			A1・A2		
(23)		防火区画の形成の状況	○			A1・A2		
上記以外の検査項目								

バランス式は元々危害防止装置が設置されていません。バランス式の場合、(7)～(10)は「—」とし、(11)の判定をしてください。

また、平成17年11月30日以前の防火設備については、巻き取り式で危害防止装置が設置されていない場合は、(7)～(11)の「要是正」と「既存不適格」に○を記入し、バランス式で運動エネルギーが10J超又は閉鎖力150N超の場合は、(11)の「要是正」と「既存不適格」に○を記入してください。

堅穴区画がある場合が対象となります。1区画以上について感知器を作動させ複数の耐火クロススクリーンの作動の状況、区画の形成の状況を確認してください。なお、単体で区画が形成する場合は(23)の検査は不要です。

特記事項				
番号	検査項目	指摘の具体的内容等	改善策の具体的内容等	改善(予定)年月

No.7の記入例は省略しています

検査結果図

連動制御器(受信盤・総合防災盤)は連動機構検査項目に該当しますので位置を明示ください。

防火設備を以下のような記号等で表記してください。

凡例	
記号	種別
SD	防火扉
SS	防火シャッター
CS	耐火クロススクリーン
	連動制御盤
Ⓢ	煙感知器
	縦穴区画総合連動作動実施部

1(5) 防火扉の連動エネルギーが10Jを超えている。(写真○)

2(10) 防火シャッターに危害防止装置が設けられていない(写真○)

1(1) 物品放置、閉鎖障害あり(写真○)

非連動

3階平面図

屋上階平面図

防火設備検査結果図(平面図)には、防火区画に設けられた防火設備を対象としています。防火区画が判別できるよう朱書き(赤線)で明示願います。
※随時閉鎖防火設備のうち外壁開口部の防火設備、常時閉鎖防火設備は検査対象外です。

防火設備が多い場合は、階別、防火設備の種類別に、防火設備の数量一覧表を表記してください。
扉の枚数は扉の枠単位で1枚としています。(神戸市を除く)

防火設備の種類		枚数				
		地下1階	1階	2階	3階	4階
煙感知器連動式	防火扉					
	防火シャッター					
	耐火スクリーン					
温度ヒューズ式	防火扉					

注)各階平面図を添付し、検査の対象となる防火設備の設置されている箇所、防火区画及び指摘(特記すべき事項を含む)のあった箇所を明記すること。

